

若年層の生活意識と生活の行動様式(その1) 関心事と生活態度  
 愛知大短大 ○高桑稔子 椋山女学園大家政 山口久子  
 金城学院大短大 生川浩子

目的 現代の中年層での生活不安や健康障害などの要因を考える時、若い世代における考え方や生き方、消費行動などに起因していることが想定される。そこで若年層の生活意識や行動様式を解析し、その結果から今後の生活を予測し、将来の生活設計に役立つ指標作りと教育への導入を目的とした。そのうちここでは若年層の関心事と生活態度から、彼らの価値意識、生きがい、人間関係などトータルな特性を知り、現代の若者像をさぐった。

方法 自記式留置法によるアンケート調査。対象は勤労者男子(4年生大学卒)280名、勤労者女子(短期大学卒)305名、大学生男子296名、短大生女子398名。期間は昭和57年6月25日から7月20日で、回収率は85.3%、有効回答率は99.2%であった。結果は単純集計、並びに数量化Ⅲ類簡易分析法により解析を行った。

結果 関心事において各層に共通したものは友人、人間関係、結婚、趣味、旅行、車などに集中しており、個の時代と言われながらも人とのかかわりを求めている。勤労者と学生、中でも勤労者女子と学生間に開きがみられる。学生間においても共通の関心事に加えて、女子学生は恋愛、資格、レジャーにより関心を示している。勤労者男子は将来を志向した地位、貯蓄、住宅土地の取得、仕事などに関心が強く、勤労者女子は関心なしとする者が他より多い。生活の仕方、態度については男女の差が明確であり、又女子は男子に比べて学生時代と勤労者になってからは態度に変化がみられる。共通する意識は納得できる行動をし、自然やスポーツに親しみ、無理せず余裕をもって暮し、仲間との協調を重んじている。男子は仕事優先で好きなこととし、女子は結婚優先で平凡に生きたいとしている。